任務と責任

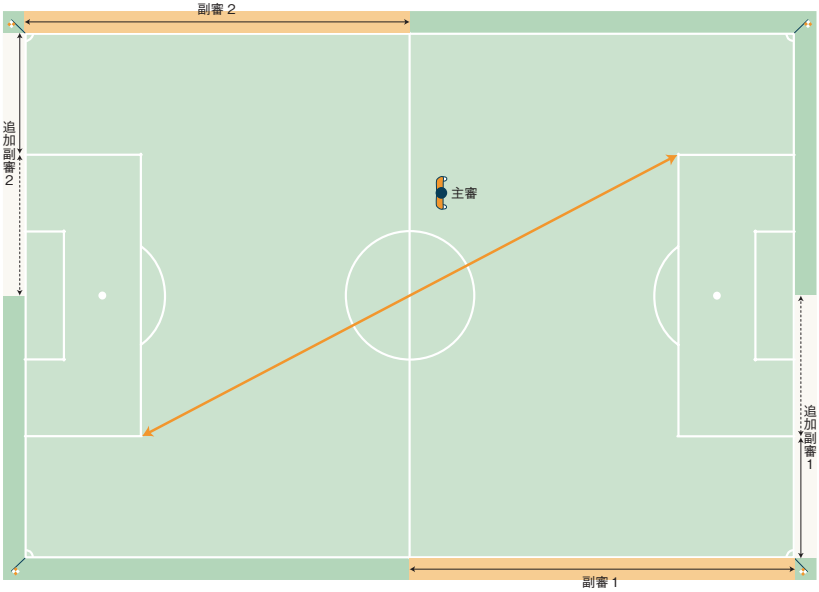
追加副審は、競技規則に従って主審が試合をコントロールするのを援助する。また、主審の要請や指示によりその他試合運営にかかわるすべての事項についても援助する。通常、これは次のようなことである。

- フィールド、使用されるボールおよび競技者の用具を点検する。
- 用具や出血の問題が解決されたかどうか判断する。
- 時間、得点および不正行為の記録を予備的に取る。

位置取りとチームワーク

1. 試合中の一般的な位置取り

追加副審のポジションは、ゴールラインの後方とする。



追加副審は特別な場合を除き、フィールドに入ることはできない。

2. ゴールキック

追加副審は、ボールがゴールエリア内にあるかどうかチェックしなければならない。ボールが正しく置かれていない場合、追加副審は主審に知らせなければならない。

3. ペナルティーキック

追加副審はゴールラインとゴールエリアの交点のところに位置しなければならない。副審は後方から二人目の守備側競技者のラインに位置する。

4. ペナルティーマークからのキック

追加副審は、ゴールの左右それぞれのゴールラインとゴールエリアの各交点のところに位置しなければならない。
追加副審は、ゴールポストの間とクロスバーの下で、ボールの全体がゴールラインを越えたかどうか、主審に合図する責任がある。

5. 得点か得点でないかの状況

追加副審は、得点があった場合、主審に知らせなければならない。

追加副審のためのシグナル・システム

追加副審は、主審に判定を知らせるために電子通信システムのみを使用し、フラッグは使用しない。
電子通信システムが故障した場合、追加副審は、判定を知らせるためにシグナルビープ付きのフラッグスティックを用いて合図する。
原則として､追加副審は手による明らかなシグナルを示してはならない。しかしながら、いくつかのケースでは、目立たない手のシグナルは主審にとって効果的な援助となり得る。手のシグナルは、明確な意味をもっていなければならない。その意味は、試合前の打ち合わせで話し合われ、共通理解されていなければならない。